

全体の中の個、 そして和とついでに

歯学部長 岡本 莫

卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。
高齢化、情報化、国際化が叫ばれ、二十一世紀に向けて我が国
が大きく変わろうとしている今、歯科界においても大学を始め、
歯科医学界、歯科医療界などにも早急な対応が求められ、さらに
それらを構成する個人にも、その在り方が問われている。

諸君たちが、この組織のいずれに属するにしても、全体は個の
集まりであり、個から全体が形成されるという当然の真理を先ず
認識しなければならぬ。とりわけ、諸君の大多数が生涯を通じ
て生活の糧とする歯科医療界においては、新しく強力なチーム
ワークが必要となる。これからは、歯科医の周りで患者や医療
従事者が動いているのではなく、円を中心にあるのは患者であつ
て、その円周上に歯科医ならびに医療提供者が存在するという発
想の転換が求められよう。この状態で初めて、患者と医療者側と
の間にインフォームド・コンセントが成り立つのである。

一方、組織の中で創造的仕事を達成しようとするとき、もつと
も大切なのは人の和、チームワークであることは勿論であるが、
それだけで旨く仕事が完遂できるかというところは言えない。
チームに加わっている個人個人がそこで自己実現、すなわち人間
形成の場を得ていることが根本なのである。それには「君子和而
不同」「小人同而不和」を心の銘として物事に対処すべきではな
らうか。

諸君の御健闘と御多幸を祈って止まない。

ロビンソン・クルーソー

工学部長 佐々木 和夫

社会学の初歩に「人間は社会的動物である」という主張がある
そうだ。生物進化の分野で言う「個体発生は系統発生を繰り返す」
という主張も、或る点で軌を一にするものだろう。

我々は個体である。自我をもつ。一卵性双生児ならざる限り、
世界中に二つとない個性をもつ創造物である。と同時に連続と統
く生物進化の系統上に一点を占める個体でもある。ということは、
個人が如何ほどその個性を主張しても、種としての進化の系統か
ら独立ではあり得ないことを意味する。

ロビンソン・クルーソーの主人公は絶海の孤島に漂着して、孤
独な生活を送ったけれど、彼は彼の育った文明社会で得た知識や
思考から独立ではあり得なかった。この点の認識は極めて重要だ
と思う。孫悟空が、やりたい放題に宇宙を飛び回ったつもりをし
ていても、お釈迦様の掌の中だったという話とも共通してはいま
いか。

概して言うとき、秀でた能力をもつ人は個性も強く、自我の主張
も多い。それはそれで良い。しばしば進歩の原動力となる。しか
し、だからと言って、他人はどうでもよいとか、他人のすることに
はすべて劣るとか、驕慢になつては他人が相手にしてくれない。
難しいものだ。その辺の調和をとることは。